

【小施策評価(平成30年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	長寿社会課	
施策	3	高齢者福祉の充実	評価 責任者	下田 法子	内線 2550
小施策	3-2	高齢者の健康・生きがい対策の充実	評価 シート 作成者	山崎 剛	内線 2551

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
健康寿命の延伸や生活の質の向上の実現に向けて、高齢者の健康づくりと生きがいづくりに対し、多様な支援が求められている。意欲や能力のある高齢者が、スポーツや学習などの機会に参加し、これまでの知識や経験を生かして地域社会に参加していくことは、生きがいを持って生活することにつながる。高齢者の閉じこもり防止など、介護予防にも寄与するものです。元気な高齢者が、住民等を中心とした地域の支え合いの担い手として活動できるように、社会参加を促進するための方法について検討し、高齢者の社会参加を一層進める必要がある。		高齢者が生きがいを持ち、安心していきいきとした生活を送ることができるように、健康寿命の延伸に向けた健康づくり、スポーツや学習などの機会の設定、介護予防のための事業に取り組むほか、高齢者が自らの経験と知識を生かし、地域の人々と支え合いながら、積極的に社会に参加・貢献できる生きがいのための事業を推進する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民		健康で生きがいを持って生活できる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(平成30年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単 位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
指標① 生きがい活動をしている高齢者数(延べ人数)	人	↗	当初値 (H25) 241,563 R1目標値 260,000 R6目標値 265,000		
			・シルバーリハビリ体操推進事業に着手し、50人の指導者養成を行った。	⇒	・指導者養成講習会受講者募集に係る普及啓発等の周知の効果が表れた。
			・老人福祉センター等の利用者が減少した。	⇒	・大規模改修工事により休館や移転したセンター(2か所)があったことにより、活動を縮小した団体があった。
			・老人クラブの会員数が減少した。	⇒	・高齢者の生きがい活動の場のニーズが多様化している。
			・直営方式では、職員の対応に限界がある。	⇒	・事業費と人員がかかる方法を選択することが難しい。
指標② シルバー人材センター登録率	%	↗	当初値 (H25) 1.10 R1目標値 1.16 R6目標値 1.21		
			・シルバー人材センターへの登録人数が増加した。	⇒	・社会参加したい高齢者が増えているものとする。
			・シルバー人材センターへの登録率は0.02ポイント増加した。	⇒	・地域の支え合いの機運が定着してきたものとする。
			・高齢者の活動の場が分散している。	⇒	・高齢者の生きがい活動の場のニーズが多様化している影響と推測される。
指標③ 老人スポーツ大会等への参加者数	人	↗	当初値 (H25) 6,009 R1目標値 6,400 R6目標値 6,500		
			・老人スポーツ大会等への参加者数が増加した。	⇒	・各地区の老人スポーツ大会が活発に開催されている。
			・ニュースポーツ講習・交流会の用具が不足してきている。	⇒	・用具の老朽化や破損により、数が不足してきている。
			・各地区老人スポーツ大会への参加者が少ない地区がある。	⇒	・周知方法の問題や、農繁期と重なる時期の開催日となることがある。
			・夏季の事業実施の際、熱中症対策を講じなければならない。	⇒	・気候の温暖化により夏季の高温時期が長くなっている。

今後の方向性(令和元年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R1年度着手済または着手予定 ☆…R2年度以降の着手を検討
☆1 毎年度、老人福祉センターでの介護予防の活動を実施する。	
★ 住民主体の通いの場の充実のため、また、高齢者の「活動」と「参加」の促進のために、シルバーリハビリ体操を継続して実施する。	
★ 岩手県のシルバーリハビリ体操3級指導者養成事業に参加し、指導者を養成する。	
★ 3級指導者でグループを作り、各地域の住民主体の通いの場でシルバーリハビリ体操を実施する。	
★ シルバーリハビリ体操出前講座を実施する。	
★ 単に支えられる高齢者が増加するのではなく、担い手となる高齢者が増加するような事業を実施する。	
☆1 住民支え合い型訪問サービスと、シルバー人材センターの協力について検討する。	
★ 老人スポーツ大会等への参加者を増やすため、共催する団体と周知について検討する。	
★ 引き続き、各地区のスポーツ大会へ助成を行う。	
★ 引き続き、開催時期及び水分補給対策等について検討する。	